

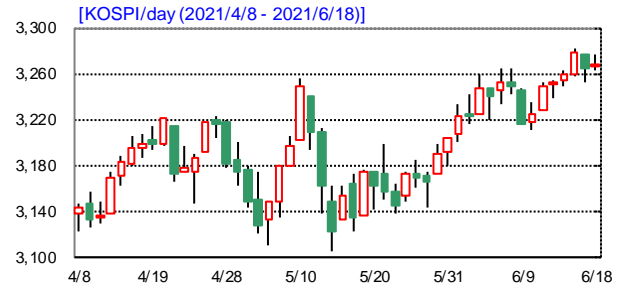


【韓国】 総合指数は週間で0.6%高と5週続伸、今週は上値警戒感が重荷か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.6%高と5週続伸。週前半は買い優勢の展開で、前週10日から16日まで5営業日続伸となり、連日で最高値を更新した。週明け14日は上値の重い展開だったが、15-16日は米ハイテク株高を好感して主力の半導体やIT株が買われ、指数を押し上げた。国内で新型コロナウイルスの接種が想定より早く進んでいることも投資家心理の改善につながった。17日は米FOMCの結果を受けて米金融緩和の縮小に対する警戒感が広がり、海外投資家や機関投資家の売りが強まった。18日は米長期金利の低下を手掛かりにハイテク株に押し目買いが入り、小反発して終えた。今週は高値警戒感が重荷か。引き続き米ハイテク株の動きが焦点となる。国内経済指標では5月PPIや消費者信頼指数などが発表される。

▼指数チャート

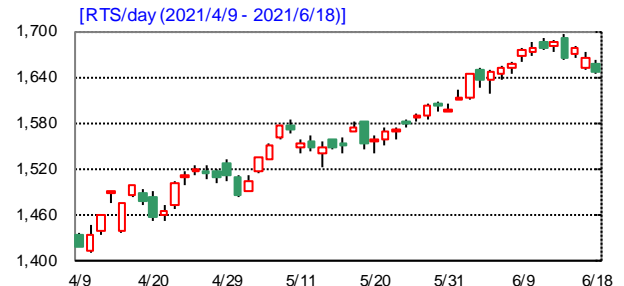


【ロシア】 RTS 指数は1.9%安と5週ぶり反落、今週は商品先物の動向が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.9%安と5週ぶりに反落。週初に上昇したが、米国株安や商品相場の下落、ルーブル安が重しとなった。週明け14日は米ロ首脳会談への期待を背景に7営業日続伸となり、2012年3月以来の戻り高値を更新。ただ、15日は米国株がFOMCの結果公表を前に調整売りに押され、ロシア株にも利益確定売りが強まった。16-17日は上下にもみ合ったが、18日は商品相場の下落やルーブル安、米国株安を受けて続落し、週の取引を終えた。個別ではエネルギーのスルフトネフテガスが3.7%、ルクオイルが2.1%上昇した一方、素材のセヴェルスタリが6.6%、ポリメタルが6.0%、ルサーが5.5%、ノリリスク・ニッケルが4.5%、ノポリベツク製鉄所が4.1%下落した。今週は商品先物相場の動向が焦点か。

▼指数チャート

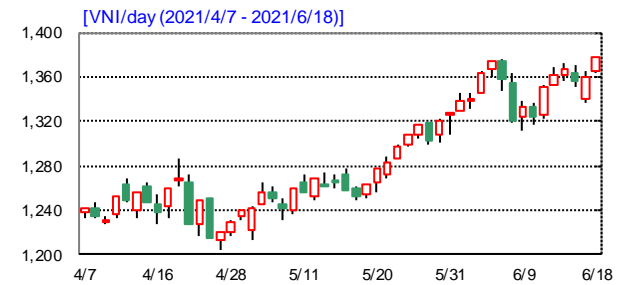


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.9%高と反発、今週は高値圏でもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.9%高と反発。国内勢の買いが続く中、海外勢が買い越しに転じ、指数は最高値を更新した。週明け14日は海外勢の売り越しで金融株が下落したが、国内勢の買いで不動産銘柄やエネルギー株が上昇し、指数は続伸。15日も不動産銘柄や証券株などが買われ、3日続伸となった。16日は4日ぶりに反落したが、17日に反発すると、18日は海外勢が買い越しに転じ、大幅続伸。指数は高値引けとなり、10営業日ぶりに過去最高値を更新した。個別ではゴム製品のベトナム・ラバーが18.4%高と急伸し、エネルギーのペトロベトナム・ガスが6.6%、不動産のビンホームズが6.1%、金融のベトナムバンクが5.5%、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が4.3%上昇し、指数を押し上げた。今週は高値圏でもみ合いか。

▼指数チャート



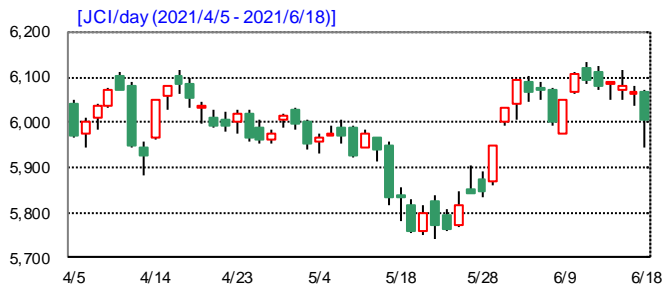


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.4%安、新型コロナウイルスの感染者数増加を嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 1.4%安と 4 週ぶりに反落。さえない値動きが続いた。週初の 14 日は、新型コロナウイルスの感染者増加による経済成長への影響が懸念され、指数は続落。一方、15 日は 5 月の輸出額が前年同月比 58.8%増、輸入額が 68.7%増と高い伸びを示した効果で 3 営業日ぶりに反発した。ただ、その後は軟調な値動きが続き、18 日には場中に一時、7 日ぶりに節目の 6000 ポイントを割り込み、終値で前日比 1.0%安と 3 日続落している。今週は国内の重要イベントが少ない中、米国の利上げ時期の前倒し予想を受けて加速した米ドル高ルピア安が一服すれば株式相場の支援材料になりそうだ。

▼指数チャート

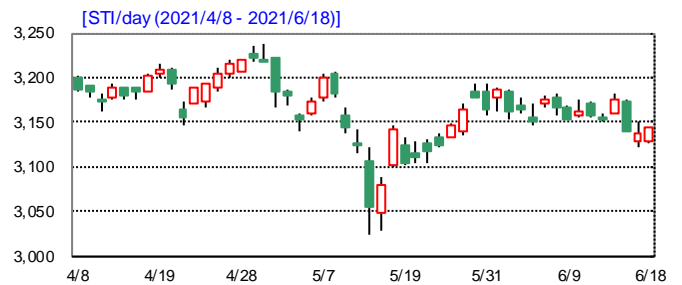


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.4%安、新規の集団感染発生で経済再開に懸念

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.4%安と反落。週末に反発したが補えなかった。週初の 14 日は、新型コロナウイルスの感染対策規制の段階的な緩和が始まったものの買い材料視されず、指数は続落。一方、15 日は金融通貨庁が前日に発表した民間エコノミスト調査で、今年の GDP 成長率見通しが 3 月時点の 5.8%から 6.5%に上方修正された効果で反発した。ただ、16 日は国内で新たな集団感染が発生し、経済再開への懸念が広がった影響で、指数は前日比 1.1%安と反落。17 日に小幅続落した後、18 日は引け際に買われ、反発して引けた。今週は 23 日に 5 月の CPI、25 日に鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

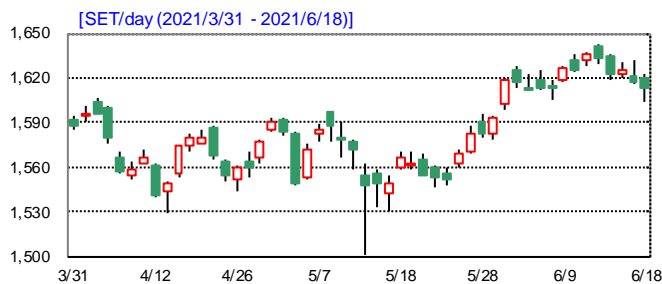


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%安、今週は 5 月の貿易統計に注目

SET 指数は週間で 1.4%安と 5 週ぶりに反落。買い材料に乏しく、軟調な値動きとなった。週初の 14 日に前週末に上昇した反動で売られると、15 日は米 FOMC を目前に控えた様子見で続落。16 日は 3 日ぶりに反発したが、17 日は前日にプラユット首相が 10 月中旬までにワクチン接種済みの外国人観光客の入国制限を大幅に緩和する方針を示したものの買い材料視されず、指数は反落した。18 日は FOMC 後の米ドル高を受けた原油先物価格の下落が嫌気され、続落して取引を終えている。今週は 23 日に 5 月の貿易統計（通関ベース）が発表されるほか、中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

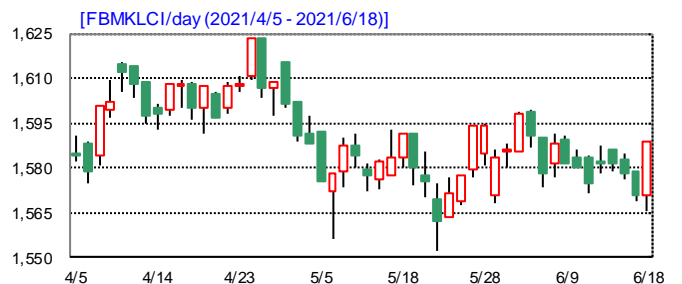


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%高、週末の反発が奏功

クアラルンプール総合指数は週間で 0.9%高と 3 週ぶりに反発。不安定な値動きが続く中、週末の反発が奏功した。週初の 14 日は、前週末に都市封鎖期間の延長が発表されたものの影響は小さく、指数は 4 営業日ぶりに反発。一方、15 日は政府による国家復興計画の発表を取引終了後に控えた様子見で小幅反落すると、16-17 日はこの計画の内容が不明瞭だったほか、長引く政局の混乱に国王が介入する事態となっていることが嫌気され、売り優勢の展開が続いた。ただ、18 日は引け際に値ごろ感のある銘柄が買われ、指数は前日比 1.2%高と 4 日ぶりに反発している。今週は 25 日に 5 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。